

地域主体の家族介護者支援システムの構築に向けて (24-23)

主任研究者 齋藤 民 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部 室長

研究要旨

家族介護者への支援を拡充するための基礎資料づくりを目的とする本研究プロジェクトでは、平成 25 年度研究として、1)高齢介護者の健康・生活面における特徴の把握 (分担研究 1)、2)韓国における認知症者の家族介護者支援施策の現状と課題整理を行った (分担研究 2)。その結果、1)高齢介護者は介護しない高齢者と比較して、すでに知られる抑うつ傾向だけではなく、他の介護予防ニーズや生活支援ニーズも有すること、2)我が国以上に急速に高齢化が進捗する韓国では、認知症高齢者とその家族への支援において一元的な管理体制を構築しており、認知症失踪者の発見にも力を入れていることが分かった。今後我が国では介護者の高齢化が予測されており、これを見据えて介護者支援のあり方を見直すとともに、一元的支援体制の構築も含め、介護者に支援が届きやすい方策を検討することが重要と考えられる。

主任研究者

齋藤 民 国立長寿医療研究センター老年社会科学研究部 室長

分担研究者

鈴木 隆雄 国立長寿医療研究センター老年社会科学研究部 部長
村田 千代栄 国立長寿医療研究センター老年社会科学研究部 室長
鄭 丞媛 国立長寿医療研究センター老年社会科学研究部 流動研究員
鈴木 佳代 日本福祉大学健康社会研究センター 主任研究員

研究協力者

井上 祐介 韓国延世大学校 医療福祉研究所 専門研究員
趙 恩暎 韓国延世大学大学院保健行政学科 大学院生

A. 研究目的

要介護高齢者を在宅で介護する家族は推計で数百万人いると考えられるが、その介護負担感や健康悪化は深刻といわれる。彼らの健康維持は在宅ケアの推進とともに地域住民の健康づくりという公衆衛生学的観点でも非常に重要と考えられる。しかし先行研究では、現行の介護保険制度下で実施されるレスパイトケアやケアマネジメントは介護者の介護負

担感軽減や健康維持につながらないという指摘もある。また我が国では地域や医療機関において介護者への支援が行われているものの、支援内容やその評価方法について確立されているとはいえない。介護者の健康増進と負担感軽減を図るためには、科学的根拠に基づく有効な支援内容を検討し、それを多くの介護者が利用しやすい方法で提供することが重要である。本プロジェクトでは、すでに平成 24 年度報告書において、科学的根拠に基づき開発された支援プログラムに関するシステムティックレビューを実施し、有用な支援のあり方と研究課題を抽出した。また、米国において根拠に基づき開発したプログラムを地域で展開している 2 事例について紹介している。

近年我が国では、介護者の高齢化が進捗し、現在では要介護者—介護者の組み合わせの約半数が老々介護状態となっている。介護者のストレスや抑うつはすでに良く知られるところであるが、介護者が高齢化しつつある現在、健康支援ニーズがさらに多様化している可能性が否定できない。現に主任研究者らが高齢者への縦断調査データを分析した結果、介護経験は高齢者の抑うつだけでなく、より身体的な健康にも影響する可能性を明らかにしている。

そこで分担報告書第 1 章では、全国規模の高齢者データを用い、非介護者との比較を通じた高齢介護者の特徴を明らかにした。一方、我が国同様、急速に高齢化の進捗する韓国では、認知症高齢者の介護に関する問題が深刻化してきている。そこで第 2 章では、韓国における近年の取り組みを整理し、我が国の家族介護者支援に向けた示唆を得ることとした。

本研究プロジェクトでは平成 25 年度の研究として、特に介護者の高齢化を見据え、今後我が国の介護者支援内容において何に注目し、どのような支援体制を用いるべきかを検討するための基礎資料を得ることとした。

B. 研究方法

1. 高齢介護者の生活と健康

Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)プロジェクトとの協働により、全国 29 自治体の自立高齢者 21515 名を分析対象者として得た。男女別、主・副介護者別に介護の状況を把握し、介護者しない者との比較から高齢介護者の特性を男女別に検討した。本調査は日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会 (No: 13-14) および千葉大学大学院医学研究院倫理審査委員会 (No: 1777) の承認を得ている。

2. 韓国における認知症患者の家族介護者支援の現状と課題

文献考察と韓国における現地調査から、韓国における認知症関連施策の現状、家族介護者支援に関する先行研究、家族介護者支援の実態について整理した。なお本研究は文献調査と事業に関する担当者へのヒアリングに基づいており、患者や家族個人を対象とはしていないため、倫理審査要件に該当しない。

C. 結果

1. 高齢介護者の生活と健康

分析対象者の平均年齢は 73.7 歳、男性が 48.0%であった。男性介護者の場合、80 歳以降介護者割合が高くなり、85 歳以上がピークであった（11.0%）。一方女性では 65-69 歳（11.2%）をピークとし、85 歳以上の介護者割合は 4.0%と低かった。主介護者は男女を問わず非介護者と比較して抑うつ傾向にある他、介護予防基本チェックリストにおける要介護リスク項目の「半年以内の体重減少」割合も高い傾向を示した。また寝込んだ場合に看病を期待できる相手がいない割合が高く、経済的に困窮する傾向にもあった。さらに男性主介護者の場合、非介護者と比較して中程度運動習慣のない割合が高いなど、保健行動の面でも良くない可能性がみられた。

2. 韓国における認知症患者の家族介護者支援の現状と課題

文献整理と現地調査から、以下のことがわかった。韓国では、急増する認知症患者とその家族への支援を目的とし、2011 年 8 月に「認知症管理法」を制定し、まず認知症のコントロールタワーの機能を持たせた中央認知症センターを設置した。2012 年には「第二次国家認知症管理総合計画」を策定し、地域の実情に合わせた認知症患者支援機関として圏域認知症センター、認知症相談センター、認知症支援センターを設置した。その他、24 時間 365 日体制で認知症に関する相談を受けるコールセンターや家族介護者への教育プログラムの提供、国民に対する認知症に関する情報提供などを行っている。他方で、インフラや人材の配置に地域間の差があることや、財源の問題から支援サービスを継続的且つ広範囲に展開できないこと、認知症専門人材の不足などの問題を抱えていることがわかった。

D. 考察と結論

平成 25 年度は大規模調査データを用いた高齢介護者の支援ニーズや、韓国における認知症高齢者の介護者への支援策に関する文献研究と実地調査を行った。その結果、高齢介護者は介護していない高齢者と比較して抑うつ傾向の人が多以外にも、「体重減少」などの要介護リスクを抱えていることがわかった。さらに身近な人に体調不良時のケアを頼めない割合が高く経済的にも苦しいなど、生活支援の面でもリスクが高いことがわかった。本研究結果は、現在地域で実施される主に抑うつを念頭においた介護者支援のみでは不十分であること、地域包括ケア体制において高齢介護者を要支援者と位置付け、本人への介護予防支援や生活支援を行うべきことをデータで裏付けたといえる。

一方、我が国以上に高齢化が急速に進行している韓国では、中央認知症センターを設置して管理体制を中央に集約し、一元的に認知症の本人や家族を支援するシステムを構築している。また韓国ではもともと医療と介護の保険者が一元化され情報化が進んでいるが、認知症患者総合データベースを構築し、今後の制度設計につなげるとのことである。こう

した強い管理体制と大規模データベース構築は、施策が縦割りにになりがちで、他部門・機関との連携が取りづらいと指摘される我が国においても参考になると考えられる。介護者にとって要介護者の徘徊や失踪は国内外を問わず介護負担の要因となっているが、韓国の場合、家族介護者支援の一環として認知症失踪者対策に力を入れている点も我が国の家族介護者支援に示唆を与えるものである。

以上、平成 25 年度の本研究プロジェクトから、今後に向け介護者の高齢化を見据えた支援ニーズの見直しや介護者支援を一元的に行う体制づくりが重要であることが示唆された。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

- Seungwon Jeong, Yusuke Inoue, Katsunori Kondo, Daisuke Matsumoto, Nariaki Shiraishi. Formula for predicting FIM for stroke patients at discharge from an acute ward or convalescent rehabilitation ward. *Jpn J Compr Rehabil Sci* 5: 19-25, 2014
- 鄭丞媛, 近藤克則：地域包括ケアシステム構築の背景と展望. *Journal of Clinical Rehabilitation*, 23(1) : 12-17, 2014

2. 学会発表

- Saito-Kokusho T, Wakui T, and Kai I. The effects of spousal illness on self-rated health in older people: do their informal networks make a difference? The 66th Annual Scientific Meeting, Gerontological Society of America. New Orleans, USA. Nov. 21, 2013. (Poster Presentation).
- Saito-Kokusho T, Wakui T, and Kai I. Predictors of loneliness among elderly men and women in Japan. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, June 25, 2013. (Poster Presentation).
- Chiyo Murata, Tokunori Takeda, Kayo Suzuki, Seungwon Jeong, Katsunori Kondo : Socio-economic status and dementia among the old : the AGES project. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul KOREA, Jun 23-27, 2013
- S.Jeong, K.Kondo, K.Suzuki, C.Murata, T.Saito, T.Suzuki : The variation among regional differences in the instrumental activities of daily living, The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul KOREA, Jun 23-27, 2013
- 鄭丞媛, 鈴木佳代, 近藤克則, 加藤清人：認知症になりやすい地域はあるのか：JAGES

プロジェクト. 第 23 回日本疫学会学術総会, 2013.1.25, 大阪

- 井上祐介・鄭恩英・鄭丞媛・徐栄浚：日韓における高齢者の社会的入院の発生要因の分析, 2013 年度韓国保健行政学会後期学術大会, 2013.11.8, 韓国釜山

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし